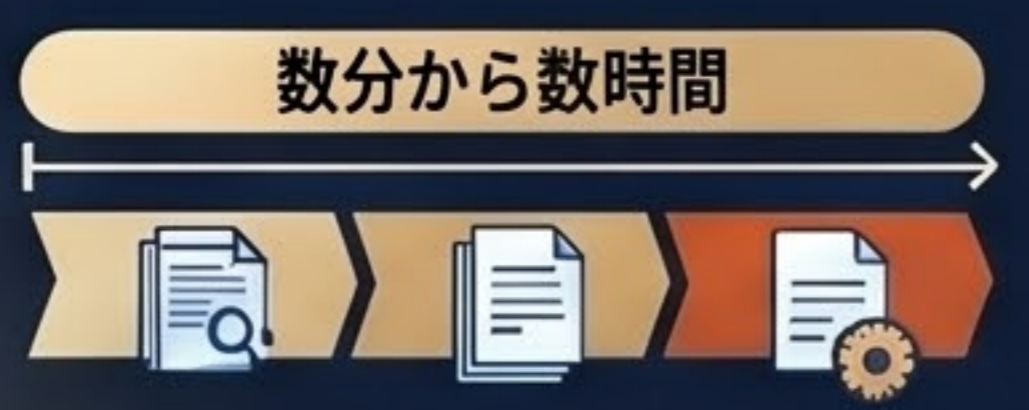
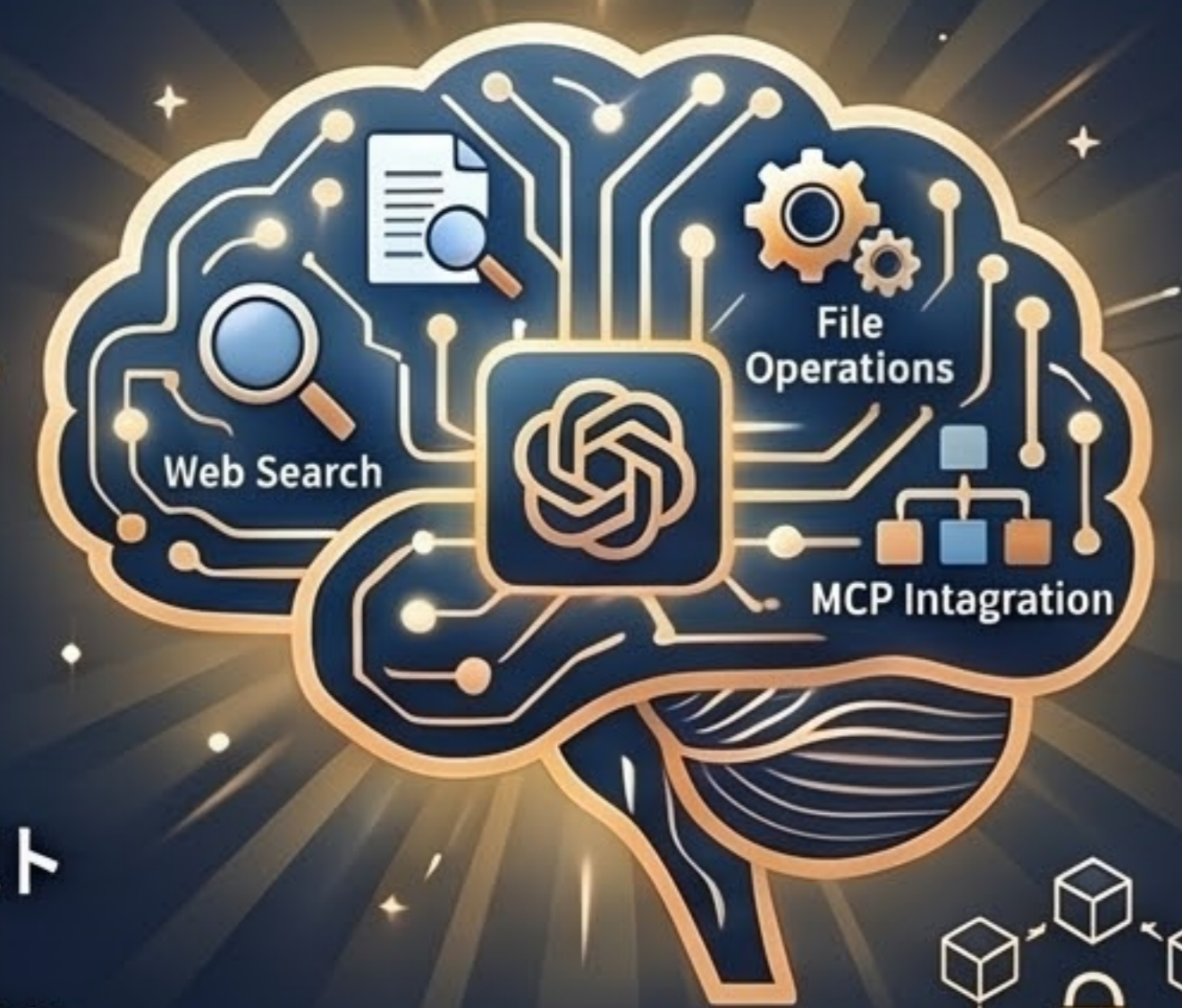


Claude Opus 4.8が変える知財実務の未来：エージェント化による革新とガバナンス

Clowe Opus 4.8 の技術的コア（エージェント能力）



100万トークンのコンテキストと多言語・画像処理
 大規模な網許ドキュメントやPDF書影、回裏を含むドキュメントを一箇に読み込み、驚異な感誦を行うことが可能です。



長時間実行を支える「Managed Agents」
 数分から数時間に及ぶ多様なツール実行 (Web検索、ファイル操作、MCP遊換) を、1セッションで完遂します。

監査可能な「長期メモリ」構造
 変態置能か不査 (immutable) をメモリとして用いるため、過差の突跡や社ルルを学習しつつ、プロセスの確購も可能です。

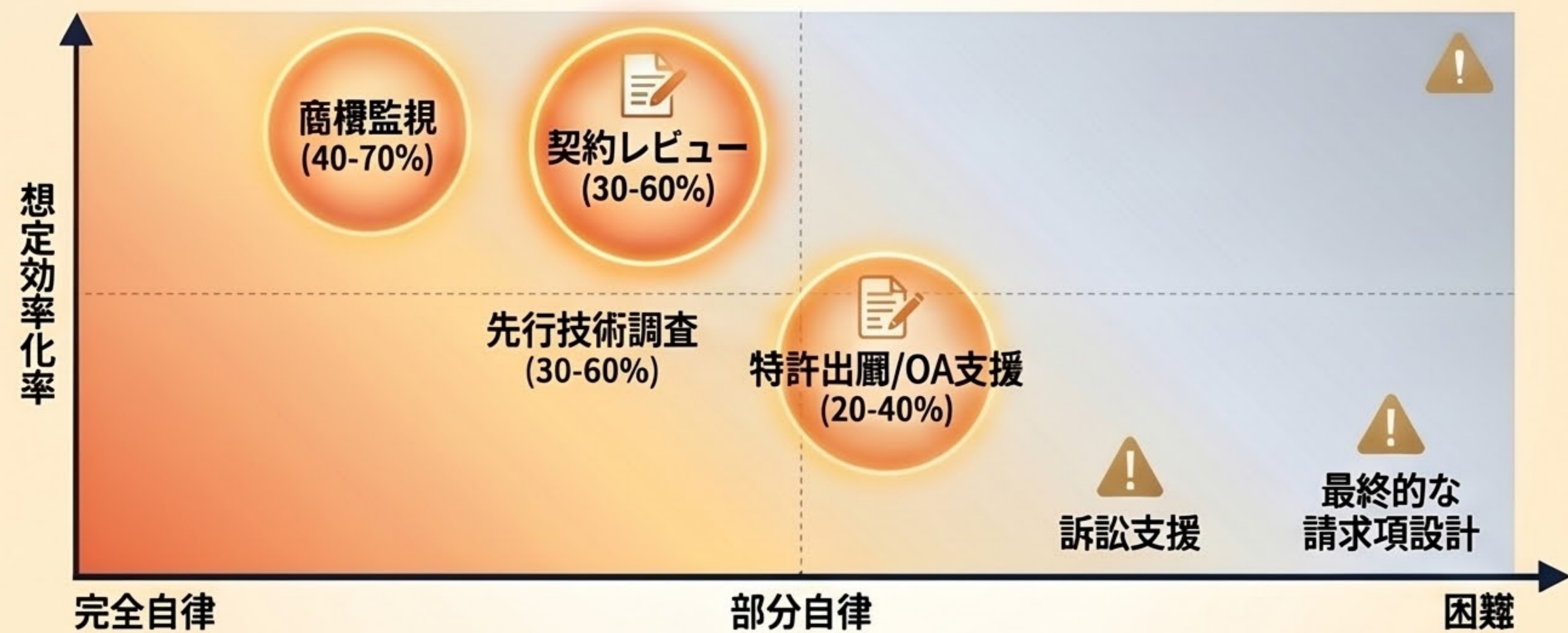
経済的インパクト（月間削減時間の試算）

月間約440時間の削減と12ヶ月での損益分岐
 中盤・大手知財部門の規定シナリオにおいて、年間約3,900万円の純削減 (本橋繰揃後) が見込まれます。



コストの主因は「API」ではなく「運用」
 APIコストは極めて僅く (全体の幾)、業界上のコストは接納・監査・人間によるレビュー伴童が弁めることとなります。

知財業務別の自律化レベルと効率化予測



「判断」ではなく「前後の工程」の自動化
 最終的な法的判断は人間が行い、その前段階の観宜・構造化・翠翠作成にAIを集中させる「部分自律」が鍵突されます。



リスク管理とガバナンス（三層設計）



2031年に向けた導入ロードマップ

